

第58回日本薬剤師会学術大会



分科会部門長
藤田洋司理事

第58回日本薬剤師会学術大会(10月12日(日)、13日(月・祝)於国立京都国際会館) 日本薬剤師会学術大会京都大会 分科会部門では

分科会部門長 藤田 洋司
大会実行委員長 中西 昭人

本コーナーでは第58回日本薬剤師会学術大会学術大会が開催されるまでの裏側や各部門長の想いを毎月ご紹介します。今回は分科会部門長の藤田洋司先生にお話を伺います。(聞き手：中西昭人)

— 学術大会の運営に関わるのは初めてと伺いました。今の率直な想いをお聞かせください。

まずは戸惑いがありました。自分が役に立てるのかなと不安に思っていますので。
ただ、委員に推薦して下さった先生への思いや、京都への思い、きっともう二度とこういう経験はできないだろうなと思い、精一杯努めたいと思います。

— 部門運営で工夫されていることをお教えてください

メンバーがそれぞれ異なる施設に所属し、普段から頻繁にコミュニケーションを取るということもなかったもので、そういう間柄を仲間という関係に昇華させるために、色々なことに配慮しないといけないということです。完璧にできるわけでもありませんので、そこは割り切らないといけない部分もあります。部門長として頼りなく申し訳ない思いもありますが、メンバー全員が、いつも優しく冷静に受け止めてアドバイスをいただけるので感謝しています。

— 分科会の内容で工夫されたことをお教えてください

分科会では明日からでも実践できるような内容を表現することで、「プロフェッショナリズムの涵養」をイメージ化できれば大会の全体像を感じていただけたと思っています。様々な関係性もありますので、主催者側の思いだけでは難しいこともあります。今後の薬剤師としての活動に少しでも参考になるような内容になればと思っています。

— 一般演題の募集が始まっています

僕も何年か前に口頭発表する機会がありました。それは学校薬剤師がテーマの内容でしたが、一般演題では様々な興味深いテーマの募集があります。今までの成果を発表したり、研究したりすることは、普段の生活ではなかなかできないことです。そういう意味でも学術大会を契機として、何かに挑戦することは、薬剤師人生としてもすごく意味のあることだと思います。僕も発表を経験したからこそ言えるのですが、その経験は本当にかけがえのないものとして残っていて、発表のテーマであった学校薬剤師としての考え方を見つめ直す機会にもなりました。

学術大会は、様々な知識や情報を得る場所、発信する場所ですが、色々な出会いの場であったり、再会の場になったりもすると思います。この京都大会での演題登録受付の締め切りは5月1日(木)正午までですが、多くの方にご応募いただいて、そういう経験を、私たちの地元でしていただけること、皆様のポスター発表を見れること、口頭発表を聞けることを、すごく楽しみにしています。



大会ホームページ